

スクミリンゴガイの防除(秋から翌春にかけて)

令和6年9月27日
吉見町農作物病害虫防除協議会
東松山農林振興センター

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の発生した水田では、来年の被害を軽減させるため、以下の防除方法を参考にスクミリンゴガイの数を減らしましょう。

1 水田を湛水し、石灰窒素を散布して殺貝する。

方法 水田を水深4 cm程度に湛水して3, 4日後、スクミリンゴガイが動き出した時期に石灰窒素を20～30kg/10a 散布し、3, 4日放置後、自然落水する。

時期 スクミリンゴガイが活動する水温17°C以上の時期。

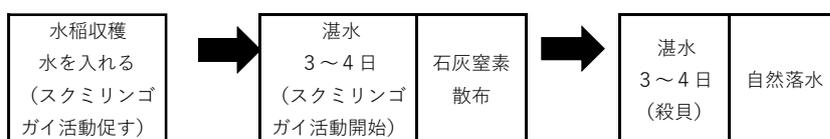
(目安 秋(※1)は水稻収穫後、10月中まで。春(※2)は5月ころから田植え前まで。)

注意 石灰窒素を農薬として使うため、袋に書いてある表示内容を確認して使いましょう。

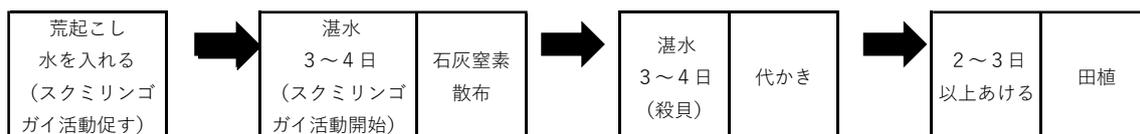
石灰窒素が用水・河川に流出しないよう、石灰窒素散布後は漏水しないよう水を止める。

石灰窒素には窒素肥料が含まれるので、倒伏しないよう、水稻の元肥を減ずる。

※1 秋の石灰窒素散布



※2 春の石灰窒素散布



(注) 石灰窒素の使用回数は1回のため、秋期に散布した場合は、田植え前には散布できません。

(裏面に続く)

2 水田を耕うんして、①貝を破碎したり、②貝を寒さにさらして殺貝する。

方法 水稲収穫後、ロータリーを高速回転、低速前進で浅く耕うんし、①貝を破碎・殺貝、②地表面の寒さに貝をさらして殺貝する。

時期 水稲収穫後、1, 2月（寒さで殺貝する場合は最低気温 -3°C で3日程度。）

注意 耕うんで破碎できる貝の大きさは2cm以上。

暖冬だと、寒さにさらして殺貝する効果が低くなる。

また、収穫後の稲わらがあると温床効果で貝の越冬率が高まる。

発生していないほ場に貝をもちこまないよう、作業するほ場の順番を考慮する。

また、発生したほ場で作業した機械は、土に混じった貝を落すよう洗浄して移動させる。

3 その他

冬期、スクミリンゴガイは水田のほか、用水などで越冬するので、用水さらいなど行い、水田への入水時は用水から貝が入らないよう網などをはる。

4 防除例

作型・品種	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
●早期・早植え (コシヒカリ他)	●収穫	●石灰窒素 散布※1	●1, 2月 耕うん (破碎、寒さにさらして殺貝) ●用水さらい					●田植え 準備	●田植え		
●普通植え (彩のかがやき他)		●収穫	●1, 2月 耕うん (破碎、寒さにさらして殺貝) ●用水さらい					●石灰窒素 散布※2 ●田植え 準備	●田植え		
<参考> 熊谷アメダスの 月平均気温	17°C以上		17°C以下					17°C以上			

(注) 春(5月)に石灰窒素を散布する場合は、耕うんしてから湛水する。